



胃瘻クリニカルキット 取扱いマニュアル



— お願い —

本製品は医家向けの製品です。
製品のご使用前に必ず添付文書 DC67577 をご一読下さい。

● 目次

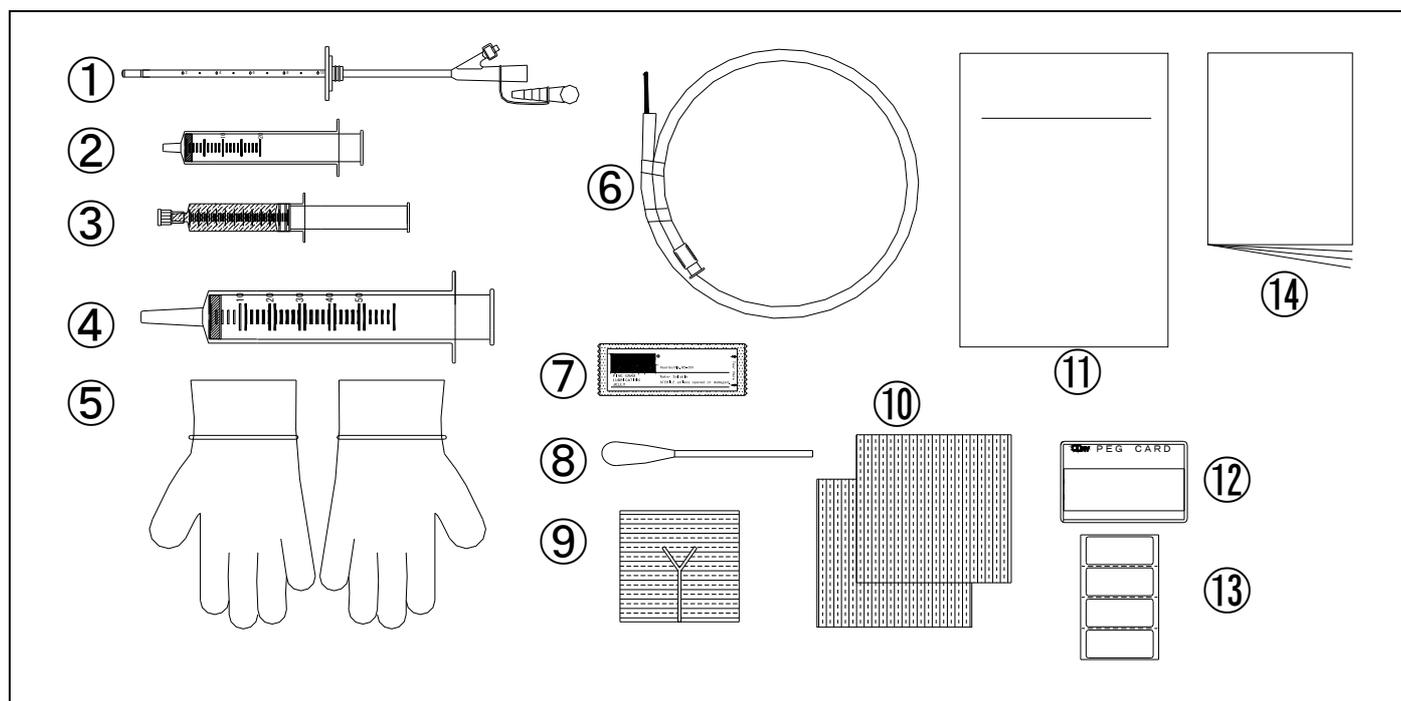
<1> 製品の構成	●-----	P.1~
・胃瘻クリニカルキット内容		
・カテーテル製品図		
<2> カテーテルの交換	●-----	P.4~
・カテーテルの交換方法		
・カテーテル交換後の留置確認方法		
<3> 栄養剤の注入	●-----	P.8~
・栄養剤を注入します		
・薬剤の注入		
・栄養剤・薬剤の注入が終わったら		
<4> 胃瘻の管理	●-----	P.12~
<5> 胃瘻カテーテルに関する注意事項	●-----	P.13~
<6> こんなトラブルが発生してしまったら…	●-----	P.14~

- カテーテル交換の記録
- 栄養剤の記録
- メモ

＜1＞ 製品の構成

製品を取り出す前に製品や包装に異常がないか、取り出す際には構成どおり揃っているか確認して下さい。

＜胃瘻クリニカルキット内容＞



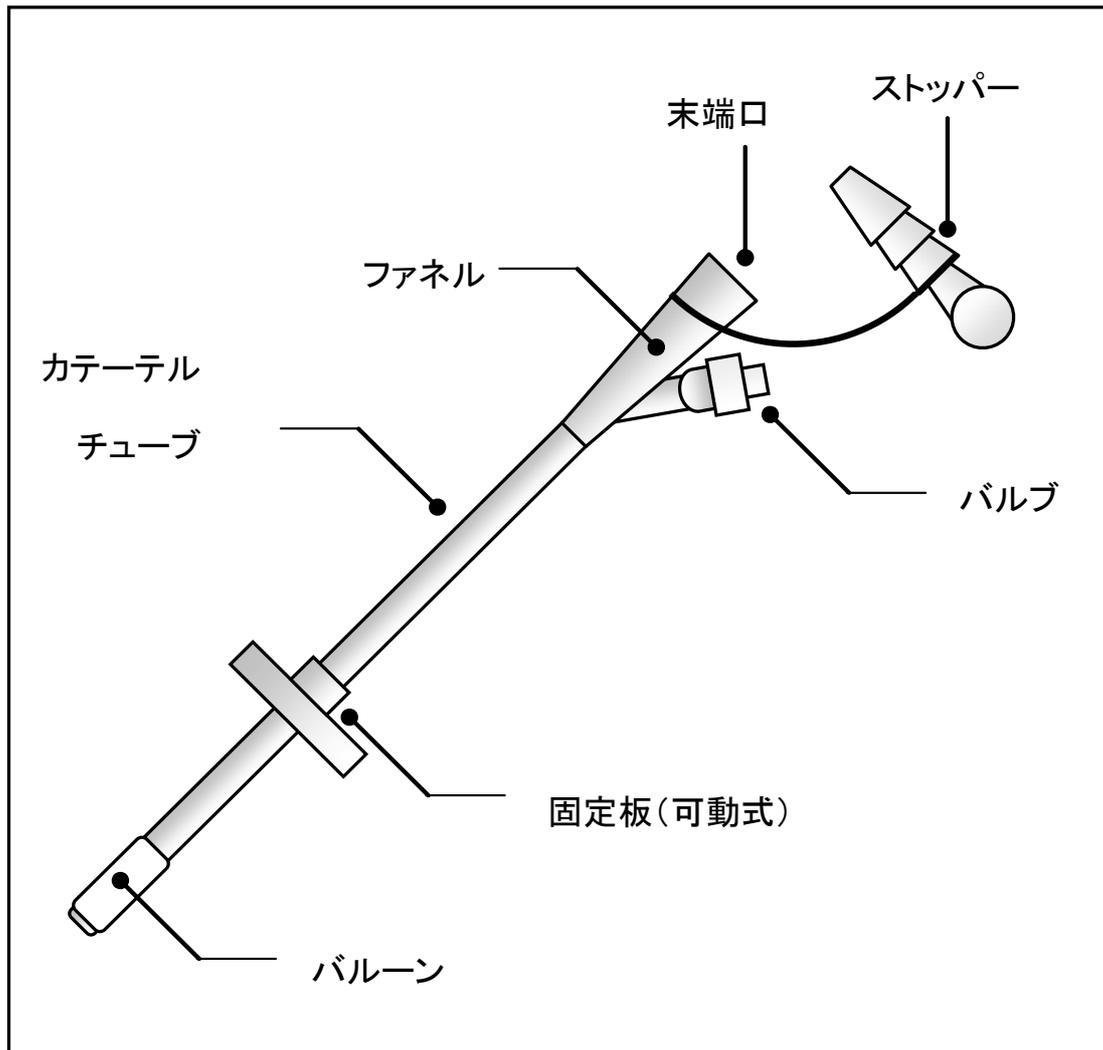
- ①カテーテル ②バルーン拡張器（抜水用）
- ③滅菌精製水入りバルーン拡張器 ④カテーテルチップシリンジ
- ⑤手袋 ⑥ガイドワイヤー ⑦潤滑剤 ⑧綿棒 ⑨Yガーゼ
- ⑩ガーゼ ⑪添付文書DC67577 ⑫PEGカード
- ⑬カルテ貼付ラベル ⑭取扱いマニュアル（本書）

販売名：胃瘻クリニカルキット

医療機器認証番号：220AABZX00342000

製造販売業者：クリエートメディック株式会社

<カテーテル製品図>



○バルーン

胃瘻カテーテルが体外へ抜けてしまうのを防ぐためのものです。
バルブから滅菌済蒸留水を注入してバルーンを膨らませます。

○固定板（可動式）

胃の蠕動により幽門や十二指腸へバルーンが引き込まれるのを防止するためのものです。

○カテーテルチューブ

栄養剤を胃に注入するためのチューブです。

○バルブ

ここから滅菌済蒸留水を注入してバルーンを膨らませます。少なくとも一週間に一度は滅菌済蒸留水の入替えを行って下さい。なお、注水量はカテーテルの太さによって異なりますので、注水前には必ずバルブに表示してある規定容量を確認した上で行って下さい。

<カテーテル規格>

サイズ呼称	外径	バルーン 規定容量	バルブカラー
12Fr	4.0mm	10mL	ホワイト
14Fr	4.7mm		グリーン
16Fr	5.3mm		オレンジ
18Fr	6.0mm	15mL	レッド
20Fr	6.7mm		イエロー
22Fr	7.3mm	20mL	バイオレット
24Fr	8.0mm		ブルー

○ファネル・末端口

ここから栄養剤を注入します。栄養剤が入ったイルリガートルなどと胃瘻カテーテルをつなぐためのチューブを接続する部分です。

○ストッパー

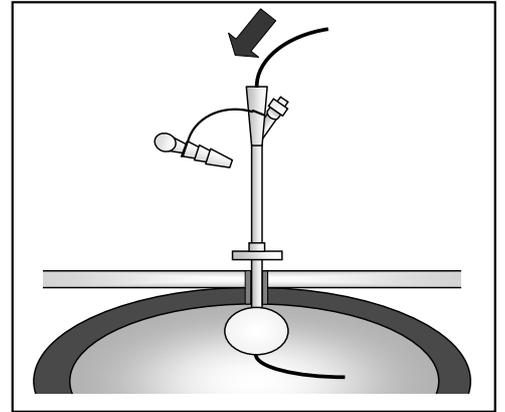
ファネルの蓋です。栄養剤を投与しないときは、このストッパーで蓋をします。

〈2〉 カテーテルの交換

〈カテーテルの交換方法〉

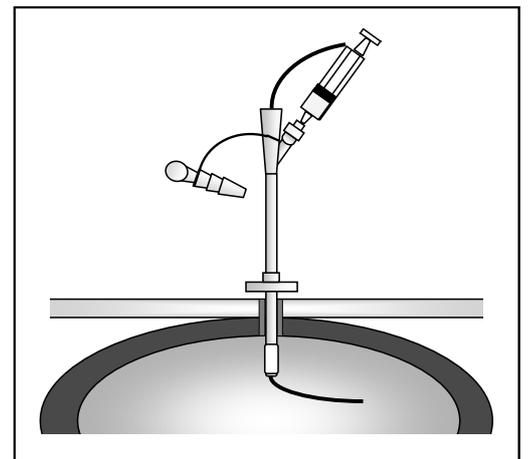
※必要に応じて付属品の手袋を使用して下さい。

1. すでに留置されている胃瘻カテーテルの内腔に付属品のガイドワイヤーを先端部（柔軟な感触の方）から挿入し、胃内奥まで十分に送りこみます。

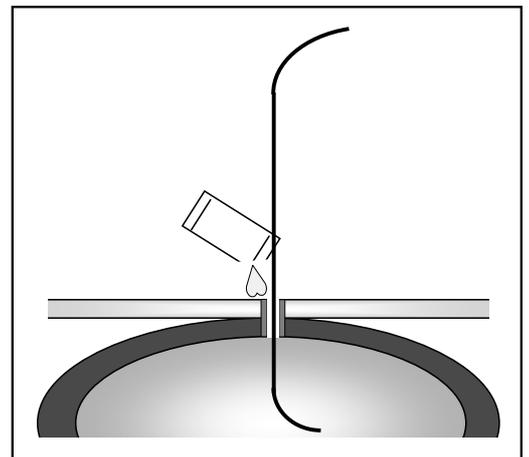


2. 留置されている胃瘻カテーテルのバルブに付属品のバルーン拡張器（抜水用）を接続してバルーン内の滅菌蒸留水を全て抜き、ガイドワイヤーが胃内から抜けないように注意しながら、胃瘻カテーテルを体外へ抜きます。

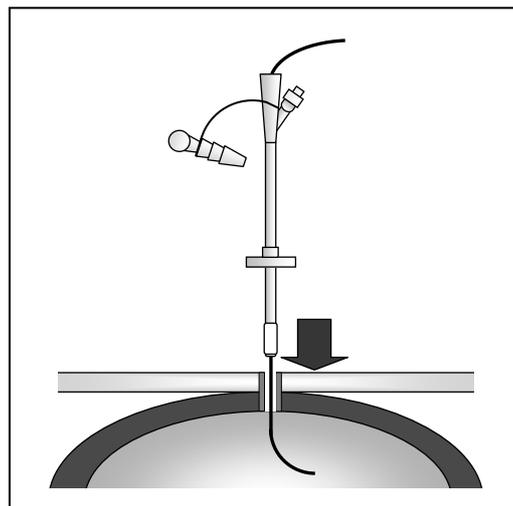
※ カテーテル抜去後は必要に応じて付属品の綿棒、Ｙガーゼ、ガーゼを用い、瘻孔及びその周辺を清拭して下さい。



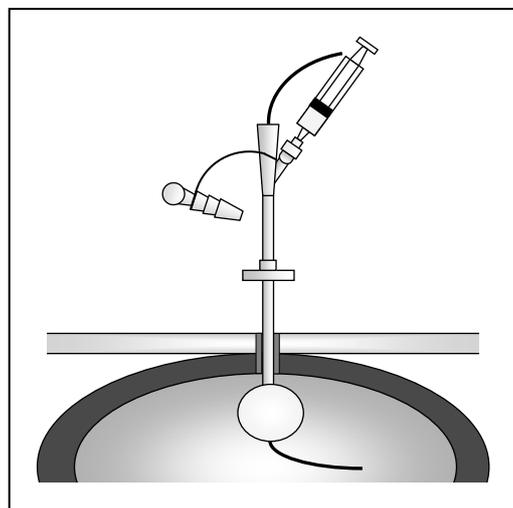
3. 瘻孔部に付属品の潤滑剤を塗布します。



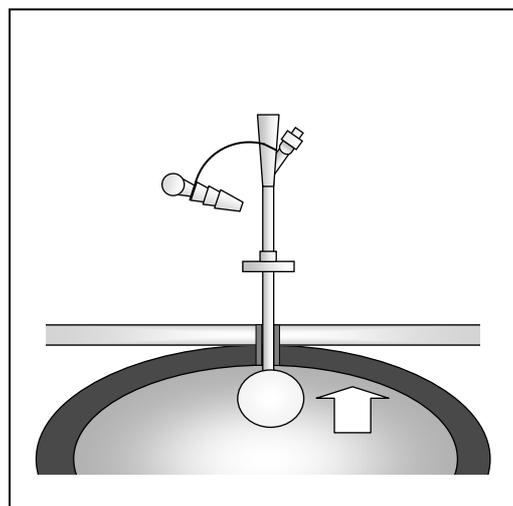
4. ガイドワイヤーに沿わせて、胃瘻カテーテルを先端側から瘻孔に挿入し、バルーン部を胃内に到達させます。



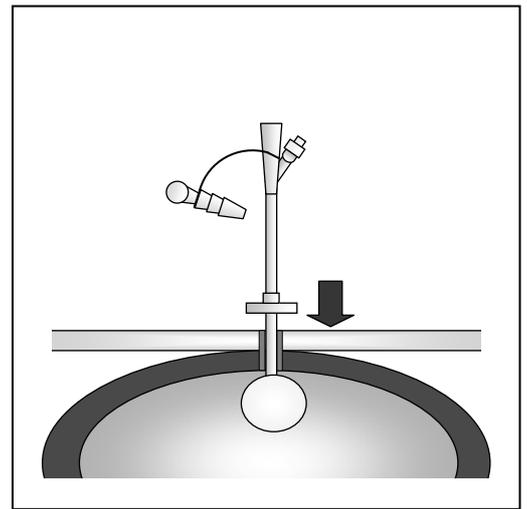
5. バルブから付属品の滅菌済精製水（規定容量）を注入し、バルーンを拡張させます。



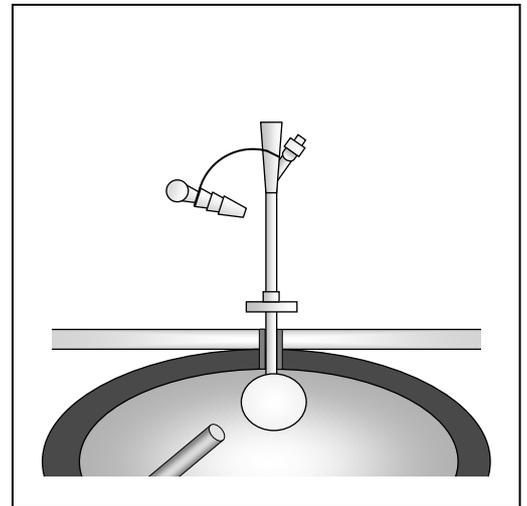
6. 胃瘻カテーテルを静かに引き上げ、バルーンが膨らんでいることを確認し、ガイドワイヤーを抜去します。



7. 固定板を皮膚に接触しない程度の適切な位置に移動させます。
(体表面から 1~2cm の遊びを持たせます。)



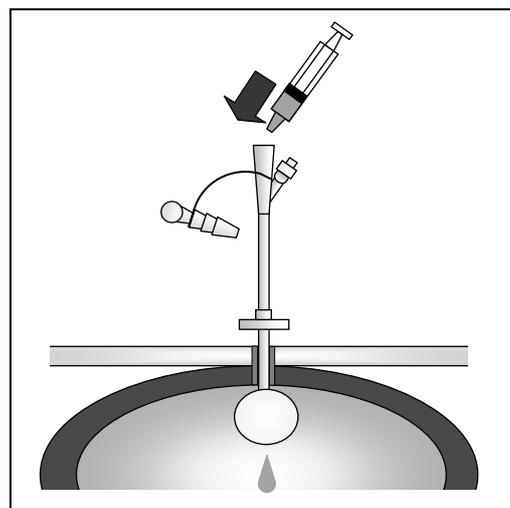
8. 胃瘻カテーテルが胃内に確実に留置されていることを確認します。



<カテーテル交換後の留置確認方法>

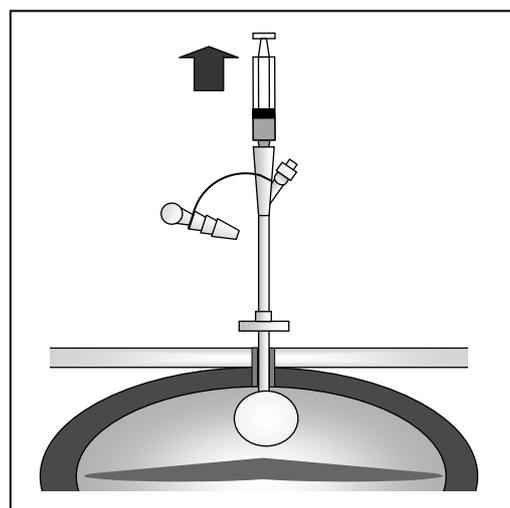
□ 内視鏡もしくはX線透視下以外の方法

1. すでに留置されているカテーテルを抜去する前に付属品のカテーテルチップシリンジで生理食塩液（食紅等で染色しておくとなおよい）20～30mL を胃内に注入します。



P4.～P 6.のカテーテルの交換方法に沿って交換を行って下さい。

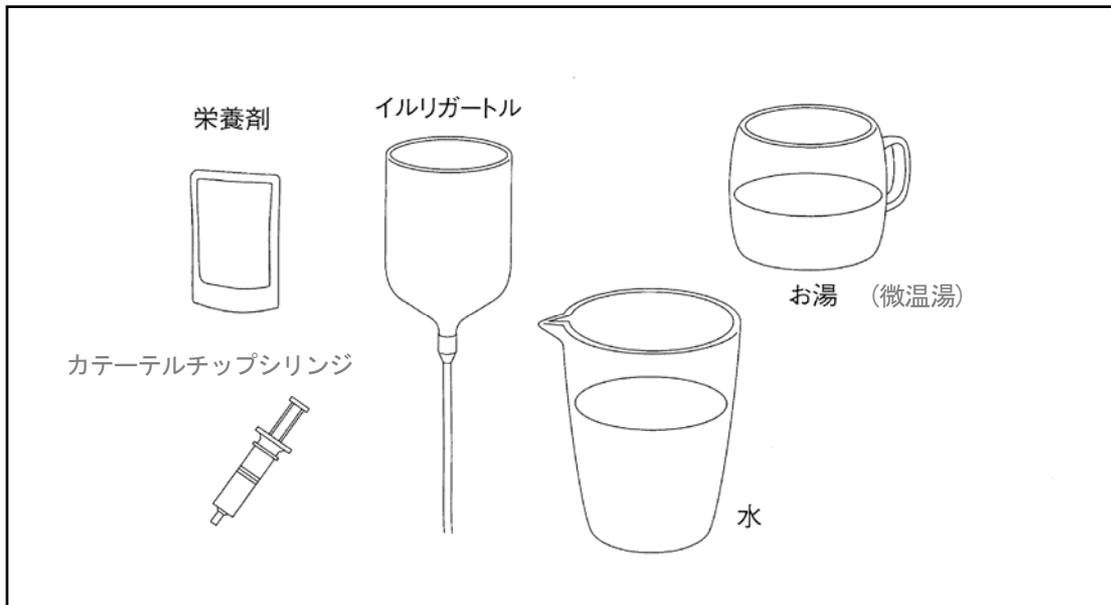
2. カテーテル交換後、あらかじめ胃内に注入していた生理食塩液をカテーテルチップシリンジで吸引し、胃内にカテーテルが確実に挿入されていることを確認します。



■この方法で胃内への留置が確実に行われたことを確認できない場合は、必ず内視鏡もしくはX線透視下にて再確認して下さい。

＜3＞ 栄養剤の注入

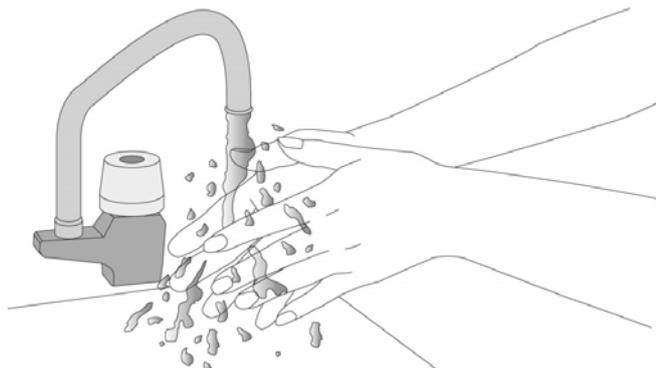
用意するもの



- 栄養剤
- イルリガートル（栄養剤を入れる容器）
- カテーテルチップシリンジ（フラッシングに使用します）
- お湯（微温湯）
- 水

栄養剤を投与する前に

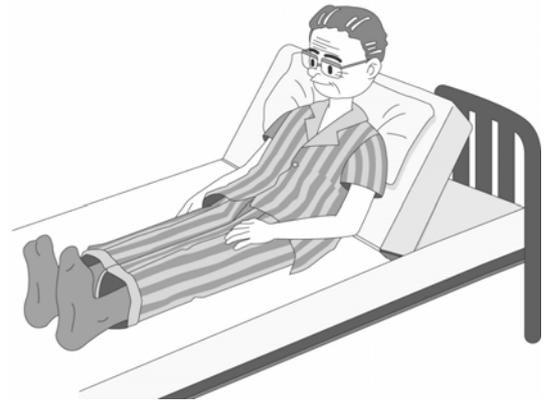
- 私たちが食事の前に手を洗うように、栄養剤を注入する前には手を石鹸でよく洗って下さい。
- 栄養剤をお湯（微温湯）に入れて人肌程度に温めておきます。



<栄養剤を注入します>

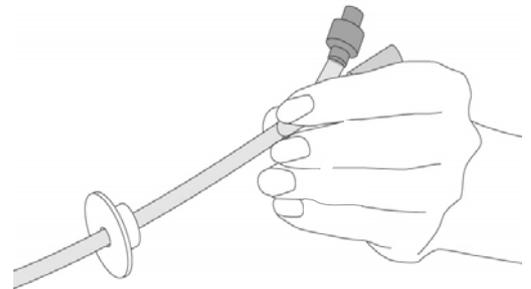
1. ベッドを上げてなるべく座っている状態に近づけます。

※ 寝たままの状態では栄養剤を注入した場合、栄養剤がのどに逆流して気管に入ってしまうことがありますので、なるべく座った状態で注入して下さい。

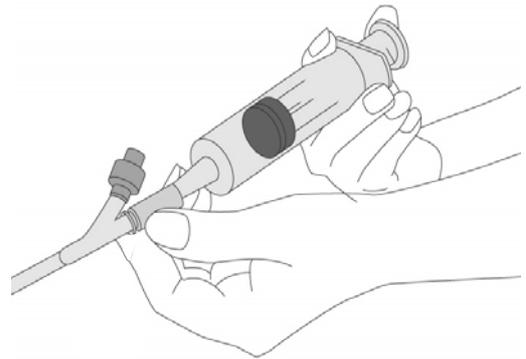


2. 胃瘻カテーテルを軽く引っ張り、バルーンが膨らんでいるか、異常がないかを確認します。

※ 胃瘻カテーテルが抜けてしまった場合は、短時間で瘻孔が狭窄しますので適切な処置を施して下さい。

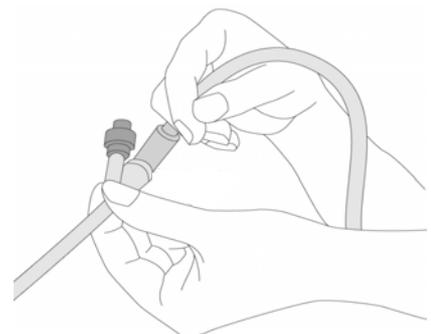


3. 胃瘻カテーテルのストッパーを外します。ファネルから5~10mLの微温湯を勢いよく注入し、(これをフラッシングと言います) 胃瘻カテーテルの中が詰まっていないことを確認します。

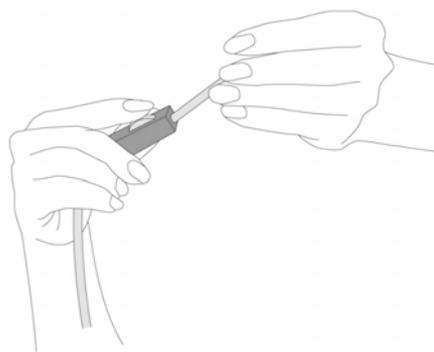


4. 胃瘻カテーテルのファネルにイルリガートルのチューブを接続します。

※接続するイルリガートルのチューブ先端にキャップが付いている場合はキャップを外して接続して下さい。



5. イルリガートルのチューブについているクレンメ（栄養剤の速度を調節する器具）を閉めて、イルリガートルに栄養剤を入れます。



6. クレンメを緩めて栄養剤の注入を開始します。



<薬剤の注入>

■薬剤を処方されている患者さんは、栄養剤注入後に薬剤の注入を行って下さい。

1. 薬剤を微温湯でよく溶かします。
2. これをカテーテルチップシリンジなどに入れて胃瘻カテーテルのファネルから注入して下さい。

※ 薬剤を栄養剤といっしょに注入するとカテーテルの中が詰まる恐れがありますので、特別な場合がない限りは、薬剤の注入は栄養剤を注入した後に行ってください。

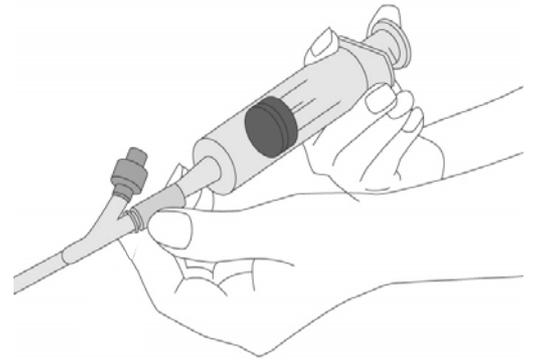
※ 薬剤の投与にあたっては、薬剤の添付文書を参照して下さい。

■散剤等（特に添加剤として結合剤等を含む薬剤）の投与は、カテーテルが詰まる恐れがあるので注意して下さい。

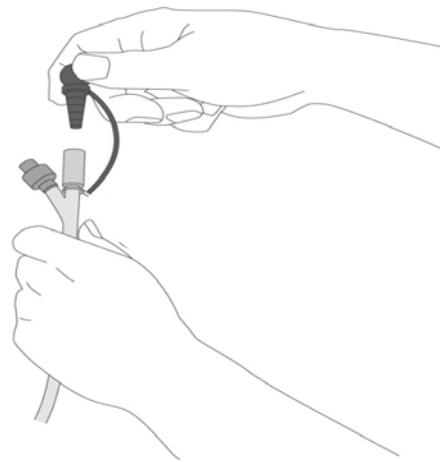
＜栄養剤・薬剤の注入が終わったら＞

1. カテーテルチップシリンジで最低 10mL 以上の微温湯を胃瘻カテーテルのファネルから勢いよく注入し、カテーテルの中に付着した栄養剤や薬剤を洗い流して下さい。

※ 残渣の蓄積による胃瘻カテーテルの詰まりを未然に防ぐ必要があるため、必ず微温湯によりフラッシングを行なって下さい。



2. 胃瘻カテーテルのファネルをファネル用ストッパーで蓋をして下さい。



3. 栄養剤を注入した後は、30 分くらいはベッドを上げたままにしておいて下さい。

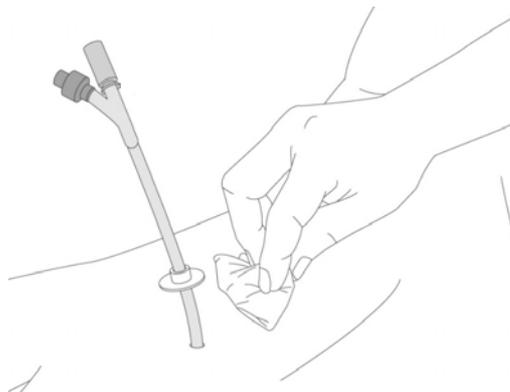
4. イルリガートルやカテーテルチップシリンジをよく洗って自然乾燥させて下さい。

＜4＞胃瘻の管理

□こまめに瘻孔の周囲を清拭して下さい

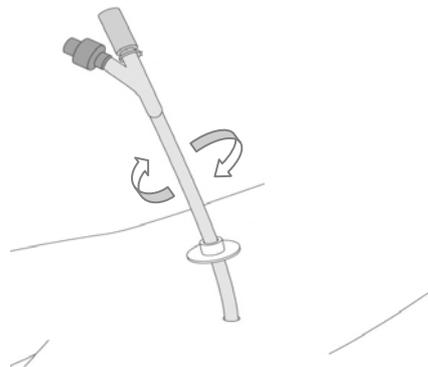
- ガーゼに微温湯をしみ込ませて瘻孔周囲の皮膚を拭きます。
- ガーゼで拭きづらい胃瘻カテーテルの周囲は微温湯をしみ込ませた綿棒を使うと良いでしょう。

※ 瘻孔の周囲を汚れたままにしておくと、スキントラブルを引き起こす場合があります。



□カテーテルを軽く持ち上げて1日1回は回転させて下さい

※ 固定板の接触による瘻孔周囲のスキントラブル予防および瘻孔周囲の状態を観察することができます。

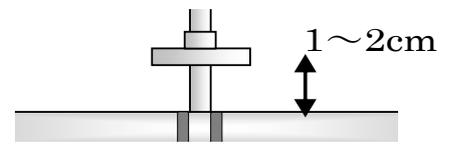


□栄養剤注入時の観察が大切です

※ 栄養剤の注入をするときに、患者さんの顔色や瘻孔周囲の皮膚の状態、胃瘻カテーテルの状態などを確認することで、早期に異常を発見することができます。

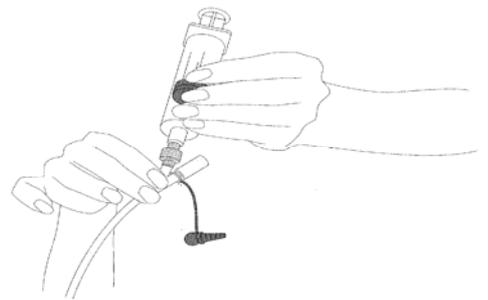
〈5〉胃瘻カテーテルに関する注意事項

- 過度に皮膚を圧迫しないように固定板を適切な位置（皮膚から1~2cm）に設定して下さい。



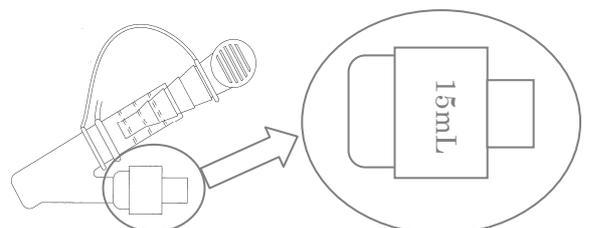
- バルーンはシリコン製ですので滅菌蒸留水が自然蒸発しやすいため、栄養剤や薬剤を注入する前には、必ず胃瘻カテーテルを軽く引っ張ってバルーンが膨らんでいることを確認して下さい。

- 1週間に1度を目安にバルーン内の滅菌蒸留水をすべて抜き取り、新しい滅菌蒸留水に入れ替えて下さい。



- バルーンには滅菌蒸留水以外は入れないで下さい。滅菌蒸留水以外のものを入れるとバルーンの破損や目詰まりを起こす恐れがあります。

- バルーンにはバルブに表示された規定容量以上の滅菌蒸留水は入れないで下さい。過度に注入するとバルーンに負荷がかかりバースト（破損）する恐れがあります。



- 栄養剤や薬剤を注入する前には、必ず 5～10mL の微温湯を勢いよく注入し、胃瘻カテーテルの中が目詰まりしていないことを確認して下さい。
- 長期的（30日以上）な使用を目的として設計されていませんので、30日を目安に胃瘻カテーテルの交換を行なって下さい。

＜6＞ こんなトラブルが発生してしまったら…

Q：胃瘻カテーテルがお腹から抜けてしまったら…

A：カテーテルが抜けた後の瘻孔はすぐに塞がってしまいます。
このような時はすぐに新しいカテーテルに交換して下さい。

Q：栄養剤が入っていかないときは…

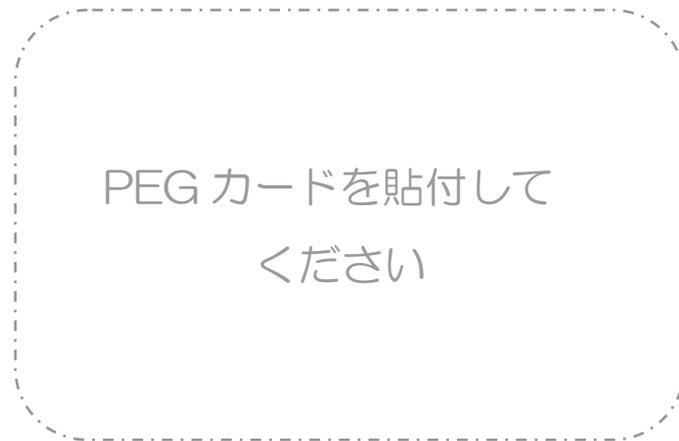
A：胃瘻カテーテルの中が詰まっている可能性があります。
注入器等は容量が大きいサイズ（30mL 以上を推奨）を使用して、胃瘻カテーテルのファネルから微温湯を注入しながら胃瘻カテーテルを揉みほぐして下さい。それでも栄養剤が入っていかない場合は新しいカテーテルに交換して下さい。

Q：瘻孔周囲から栄養剤が漏れてしまうときは…

A：胃の中にガスが充満している可能性があります。カテーテルのキャップを外して胃内のガス抜きをして下さい。
または固定板で皮膚（腹壁）が圧迫されている可能性があります。固定板が皮膚から 1～2cm に設定されているか確認して下さい。

● カテーテル交換の記録

カテーテル留置日: 年 月 日	次回カテーテル交換日: 年 月 日
カテーテルサイズ: Fr	滅菌蒸留水量: mL
製造番号:	



● 栄養剤の記録

年 月 日 病院 科 先生

	朝	昼	夜
栄養剤の量	mL	mL	mL
水分の量	mL	mL	mL
注入時間	時間(滴/分)	時間(滴/分)	時間(滴/分)
備考			

年 月 日 病院 科 先生

	朝	昼	夜
栄養剤の量	mL	mL	mL
水分の量	mL	mL	mL
注入時間	時間(滴/分)	時間(滴/分)	時間(滴/分)
備考			

● メモ



クリエートメディック株式会社

〒224-0037 横浜市都筑区茅ヶ崎南2-5-25

電話番号: 045-943-3929

URL: <http://www.createmedic.co.jp>